保管用

TAJIMA

ご使用前に必ずお読みください。

厚生労働省「安全帯の規格」適合品

タジマ安全帯
FR110/150
取扱説明書 1版

このたびは、《タジマ安全帯 FRシリーズ》をお買い上げいただきありがとうございます。
本品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる安全帯です。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。⚠危険・⚠警告・⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。
また、より安全なご使用のため、産業安全研究所技術指針「安全帯使用指針」（NIIS-TR-No.37（2004））の併読をお奨めいたします。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社HPにも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。
HPアドレス：http://www.tajimatool.co.jp
(HPトップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

この安全帯は 1 本つり専用です。

●目次

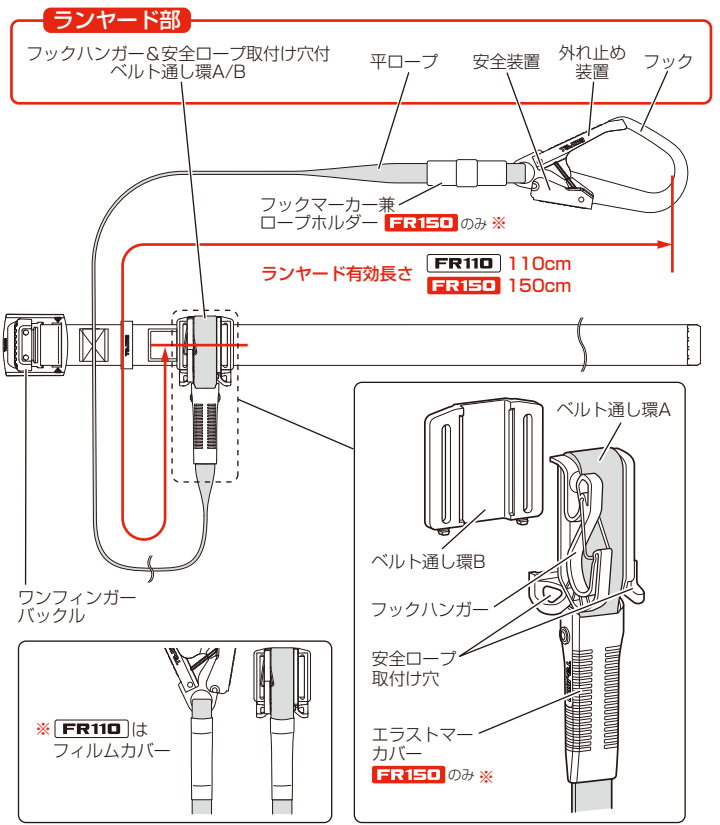
	ページ
1.構造、各部名称および使用方法	3
1-1【FR110/FR150】	3
1-2【胴ベルト】	6
2.必ずお守りください（使用上の注意事項）	7
3.点検と廃棄の基準	13
4.保管と手入れのしかた	15
5.交換のめやす（耐用期間）	15
6.性能	16
7.お客様相談窓口	16

●体重（装備重量）* の制限について

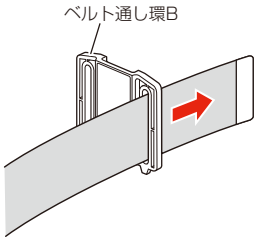
体重は 100kg 以下でご使用ください。
体重が 100kg を超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、安全帯が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。
*体重（装備重量）：体重と装着する全ての物の合計重量

1. 構造、各部名称および使用方法

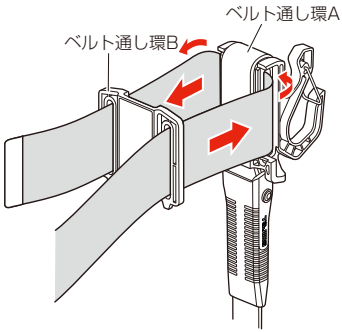
1-1【FR110/FR150】



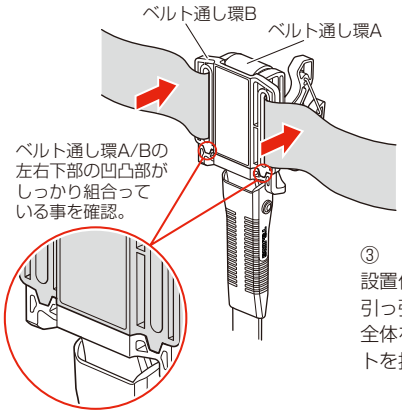
●FR110/150を胴ベルトに取り付ける方法



①
ベルト通し環Bの
裏側の穴からベルトを通す。

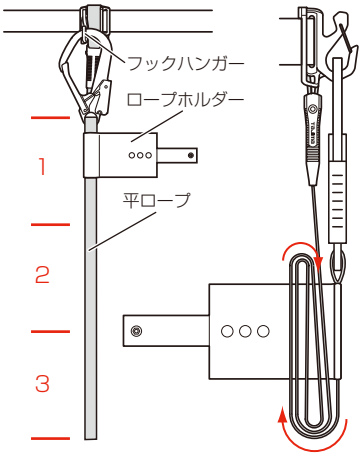


②
図のように、ベルトをベルト通し環Aの
側面の穴から通し、ベルト通し環Bの
表側の穴から通す。この状態でベルトの
設置位置までベルト通し環A/Bを一緒に
移動する。

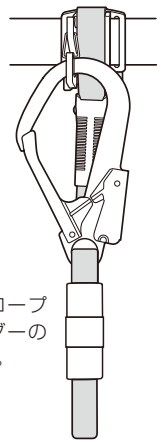


③
設置位置が決まったら、ベルトを両側へ
引っ張りながらベルト通し環A/Bの凹凸
全体を組合せる。外れないように、ベル
トを押し曲げてなじませる。

●ロープホルダーを使った平ロープのたたみ方　FR150 のみ



①
フックをフックハンガーに掛けた状態で、平ロープを3等分に折曲げて巻き上げる。



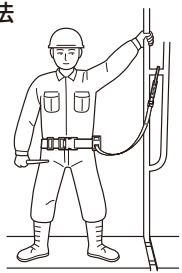
②
巻き上げた平ロープをロープホルダーのホックで止める。

●フックの操作方法

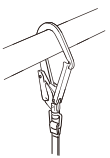
フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。

●フックの使用方法

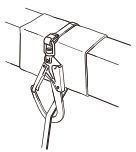
フックは腰より高い位置の堅固な構造物などに直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。



直接掛け

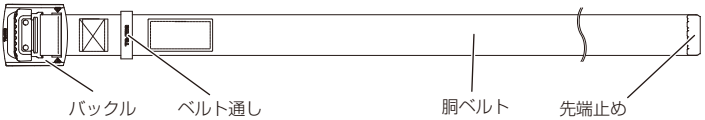


回し掛け



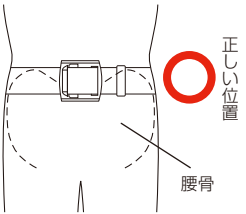
1-2【胴ベルト】

●ワンフィンガーバックル



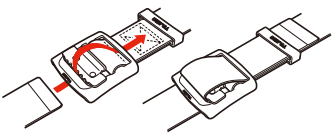
●胴ベルトを締める位置

胴ベルトは腰骨のところの正しい位置に締めてください。（右図参照）



●バックルに胴ベルトを通す方法

バックルの裏側の刻印①の所にベルト先端部を通し、次に表側の②に入れてください。余ったベルトはベルト通しに必ず通してください。

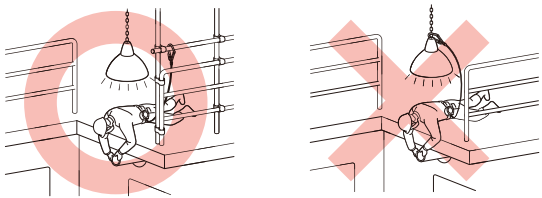


2. 必ずお守りください（使用上の注意事項）

危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

●ランヤードは堅固な構造物に取り付けてください。

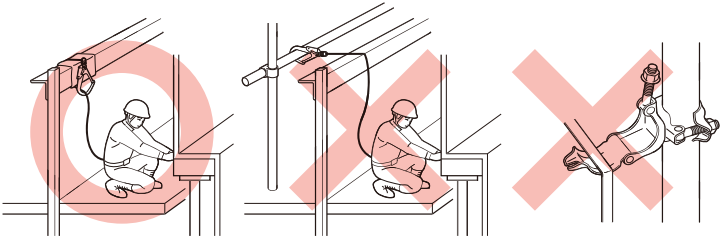
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれがなく、墜落阻止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取り付けてください。



電灯線等弱い構造物に取り付けると、墜落阻止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。

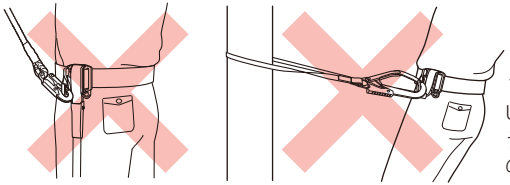
●ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。



墜落阻止時に鋭い角でランヤードが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

●フックハンガーにランヤードの取り付けは絶対にしないでください。



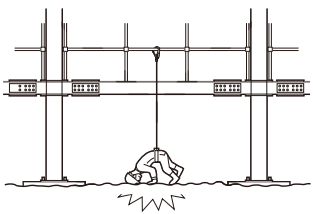
1本つり専用安全帯がU字つり使用できるように改造するためのものではありません。

警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

●安全帯は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

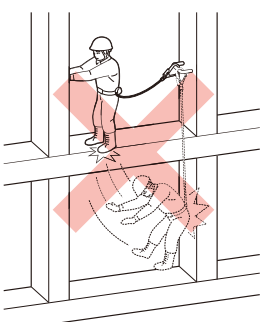
●ランヤードは墜落阻止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取り付けてください。

ランヤードは万一の墜落阻止時に人体が床面（または下方の障害物）に接触しない位置に取り付けてください。



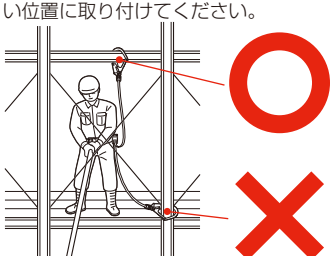
フックの取付位置が低いと床面や下方の障害物に衝突し、けがをするおそれがあります。フック取付位置から身体の最下降点までの距離は身長170cmの人の場合、ランヤード+ベルトの伸びを考慮するとFR110で2.3m、FR150は2.7mになります。

●ランヤードは振り子状態にならない位置に取り付けてください。

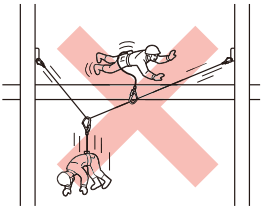


●ランヤードは腰より高い位置に取り付けてください。

ランヤードの取付け位置は高い方が落下距離が短くなりますので、できるだけ高い位置に取り付けてください。



●親綱（垂直・水平）の 1 スパンを利用する作業者は 1 名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

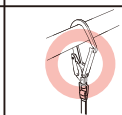
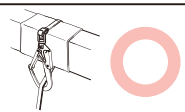
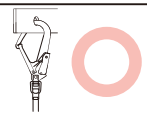
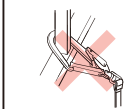
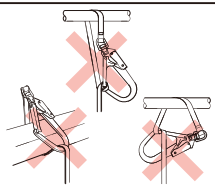
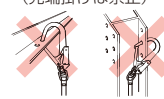
●安全帯は分解・改造しないでください。

●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

平ロープは外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは縫製部などの設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。安全帯全体を廃棄してください。

●フックは正しく掛けてください。

フックは、墜落阻止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにご使用ください。（フックの形状と掛け方は一例を示します）

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
			
誤った掛け方			（先端掛けは禁止） 

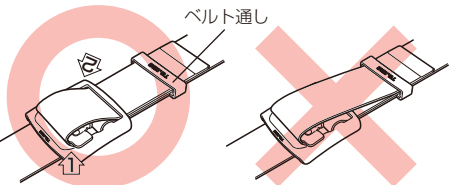
⚠ 誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材で押されたりしてフックが取付部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

●ベルト・ランヤードに酸（バッテリー液など）・アルカリを付着させないでください。

●⚠雨の日は感電に注意してください。

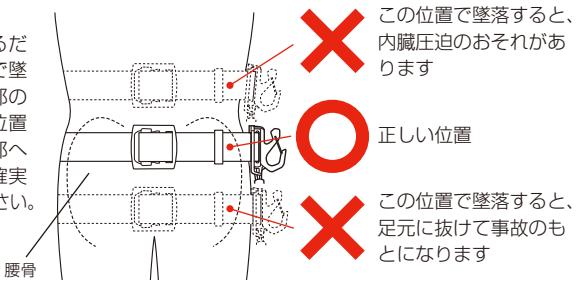
●胴ベルトをバックルに正しく通してください。

胴ベルトを矢印①から②の順に正しく通し、最後にベルト通しに通してください。通し方を誤ると、墜落阻止時に胴ベルトがバックルより滑り抜けて事故のもとになります。



●胴ベルトは腰骨のところに締めてください。

ベルトはできるだけ腰骨の近くで墜落阻止時に足部の方へ抜けない位置で、しかも胸部へずれないよう確実に装着してください。



●安全帯は -10℃～50℃の範囲で使ってください

ベルト・ランヤードが火気または高温部に触れないようにしてください。
なお、安全帯の使用温度が -10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

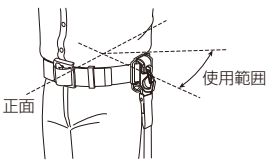
●安全帯に体重を掛けて作業をしないでください。
万一の墜落阻止を目的に使用する安全帯です。

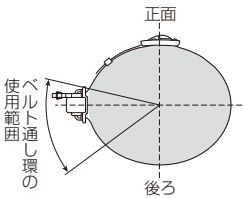
●丁寧に扱ってください。
ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。

●墜落阻止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋へ入れてください。

●安全帯は屋外に放置しないでください。
ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

●ベルト通し環A/Bは、横かななめ後ろになるように装着してください。
ベルト通し環A/Bは平ロープが確認できる身体の横か、ななめ後ろに位置するように使用してください。

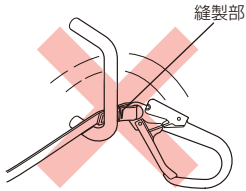




ベルト通し環A/Bを前にすると墜落阻止時に背骨に負担がかかり、人体が損傷する場合があります。

●ベルト部とランヤード部は同一業者・同一形式のものを組み合わせてください。
異なるメーカーのものを組み合わせて使用すると必要強度や機能が得られない場合があります。

●縫製部に屈曲作用が加わるような使い方はしないでください。



縫製部や縫製部際に過度の屈曲が繰り返されると、縫製部の縫製糸に切れや緩みが生じる場合があります。

3. 点検と廃棄の基準

安全帯および安全帯関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗等により性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取り換えてください。

始業点検　：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
**　　点検後地上で安全帯を装着し、異常のないことを確認してください。**
定期点検　：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。
異常時点検：作業中安全帯に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

●安全帯点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

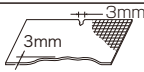
廃棄基準に達しているものは新品と取り替えてください。
（このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください）

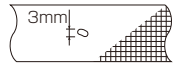
○: 異常なし
×: 異常あり
年　月　日

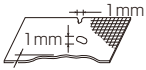
点検項目				廃棄基準	判定
胴ベルト	ベルト	両　耳	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		全　体	薬品・塗料	3mm 以上付着しているもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
			先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの	
		縫製部	縫糸	1ヵ所以上切断しているもの	
	バックル		変形	締まり具合が悪いもの	
				リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
			摩滅・傷	深さ1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
				リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
				ベルトの噛合部が摩滅しているもの （正しく装着し、腹部に力を入れてベルトがゆるむもの）	
			錆	全体に錆が発生しているもの	
			ばね	折損、脱落しているもの	
ランヤード	フック		変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの	
				リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
			摩滅・傷	深さ1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
				リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
			錆	全体に錆が発生しているもの	
			ばね	折損、脱落しているもの	
	平ロープ		切り傷・摩耗	1mm以上の切り傷や摩耗のあるもの	
			薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
			布シンブル	摩耗や脱落しているもの	
			縫製部	縫糸が摩耗や擦り切れているもの	
			変形	使用開始から2年が経過しているもの	
ベルト通し環			変形・摩滅・傷	目視で確認できる変形・摩滅・傷のあるもの	

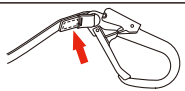
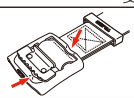
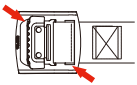
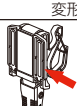
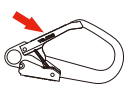
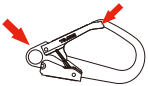
1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

安全帯の廃棄基準の一例

<table>
<tr><td rowspan="2">ベルト</td><td colspan="2">摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融</td><td colspan="2">摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融</td></tr>
<tr><td>両耳</td><td> 

3mm 以上の摩耗・切り傷があるもの</td><td>幅の中</td><td> 

3mm 以上の摩耗・切り傷があるもの</td></tr>
<tr><td rowspan="4">平ロープ</td><td colspan="2">摩耗・切り傷</td><td colspan="2">形崩れ</td></tr>
<tr><td colspan="2"> 

1mm 以上の摩耗、切り傷があるもの</td><td colspan="2">
全体に波打っているもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">薬品・塗料</td><td colspan="2">縫糸</td></tr>
<tr><td colspan="2">
塗料が付着して硬化しているもの。また薬品が付着し、変色しているもの</td><td colspan="2"> 
フィルムカバーが著しく破れ、縫糸が 1 ヵ所以上切断しているもの</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バックル</td><td colspan="2">変形</td><td colspan="2">摩滅・傷</td></tr>
<tr><td colspan="2"> 
変形し、締まり具合の悪いもの</td><td colspan="2"> 
1mm 以上の摩滅、傷があるもの</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ベルト通し環</td><td colspan="2">変形・摩滅・傷</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2"> 
目視で変形・摩滅・傷が確認できるもの</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フック</td><td colspan="2">変形</td><td colspan="2">摩滅・傷</td></tr>
<tr><td colspan="2"> 
外れ止め装置の開閉操作の悪いもの
フックが曲がったもの</td><td colspan="2"> 
1mm 以上の摩滅、傷があるもの</td></tr>
</table>

4. 保管と手入れのしかた

●安全帯は次のような場所で保管してください。

①直射日光に当らない所。
②風通しがよく、湿気のない所。
③火気・放熱体などが近くにない所。
④腐食性物質を置いていない所。
⑤塵埃の少ない所。
⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布等で拭き取ってください。

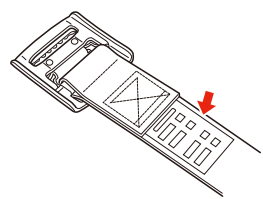
●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

5. 交換のめやす（耐用期間）

使いかたによって異なりますが、交換のめやすとしては、ランヤード部は使用開始年月より２年、ベルト部は３年くらいをめどとしてください。ただし、耐用期間内であっても「4. 点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取り換えてください。

●使用を開始した年月をバックル取付部に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。

●ランヤード部などを取り換えた時は、その年月をラベルに記入してください。



6. 性能

項目	「安全帯の規格」
胴ベルト	15.0kN 以上
平ロープ	15.0kN 以上 （アイ加工含む）
フック	11.5kN 以上
バックル連結部	8.0kN 以上
衝撃吸収性及び強さ	破断しないこと。 衝撃値は、8.0kN 以下。 （85kg 落下体使用）

7. お客様相談窓口

この取扱説明書の内容がおわかりになりにくいときや、製品の取扱いについてご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3 **0120-125577**

ホームページ http://www.tajimatool.co.jp